

いる) 来年度終了し、現在第6次の総合計画整備の素案づくりが行われていると聞いている。私は仙北市議会特別委員会の答申があるように、一刻も早く、県教育長と仙北市教育委員会はテーブルについて将来に向けたあべき学校像を検討すべきだと考えている。市民の声を聞く市民会議、また県教育長との意見交換会など議論を深め、早ければ来年6月ぐらいまでには仙北市としての方向付けを固めたいと考えている。

質問 岩瀬・北野線の未開通部分(横町小館)について伺う。現在未着工となっている

質問 雇用拡大の補正予算や、地域雇用創造推進事業に期待はするが、年明けの仕事が全

るこの区間が完成してその利便性が発揮されるものであり、基礎調査的なものは終わっていると思うが、その概略と今後の事業着手の見通しを問う。

答弁 都市計画道路岩瀬小野線の未開通部分の質問だが、平成20年度路線選定業務を実施し、その結果、お寺、墓地、桜等への影響が懸念されていたが、影響がないようなコントロールが可能と思っている。路線詳細測量等については現在検討中である。

質問 雇用拡大の補正予算や、地域雇用創造推進事業に期待はするが、年明けの仕事が全



6月までに方向づけをする高校統合問題(角館高校入口)

質問 仙北市の緊急課題である病院問題について、田沢湖病院の救急再開に向かってどのように進めるか。また大曲・仙北組合病院の移転

答弁 陳情や要望について市長会で取りまとめ国や県に要望書を提出している。民主党政権になり、この仕組みは変わったが、直接要望活動のできるものは積極的に進めたい。

質問 新市長の国や県への陳情、要望活動の基本的な考え方について伺う。



門脇健郎

市民の声になぜ応えない！ 要望活動は積極的に進める

く見えないという声が続く。地元業者がもつと仕事が出来るとな体制づくりについての考えはないか。

答弁 工事の発注については、時期や工事期間等に十分留意しながら地元業者の方々が受注できるように体制づくりを努めてまいりたい。

改築ならびに角館病院の改築をどう考えているか。

答弁 病院問題の解決は私に課せられたものと考える。問題点は医師不足で診療ニーズに応えられないこと。診療報酬の関係で経営そのものが苦しいこと。老朽化した角館病院の移転改築問題。組合病院との圏域医療連携等の課題がある。医師不足の解消は厳しいが最大限努力する。現在経営の効率化に取り組んでいるが、形態について検討したい。おたずねの医療再生基金については答弁できる情報が少ない。

質問 木質バイオマスの運営についてだが、チップの資材業者は採算が取れるか。

答弁 木質チップの供給については業者とすでに合意している。

質問 内陸線の存続に決める考えか。また公営民営化方式、職員の内陸線通勤、生徒児童の通学、支援団体に対する対応、広域観光振興に対する位置づけなどそれぞれの考えを聞きたい。

答弁 経常損失2億5千万円の財政負担が問題だ。県は内陸地域の活性化と地域公共交通の確保について国の支援事業で対応する考えだ。公有民営化は鉄道経営の手法と考えている。職員の通勤は有効な施策と考えるが踏みこむ材料がない。通学については下校時間等検討する必要がある。サポーターは元気だが、地元民の熱意が薄い。今後検討すべき課題である。内陸線は県内にとどまる公共交通機関とは考えていない。沿線観光については地域資源を活かし、鉄道経営収入と営業外収入の2つの取り組みを今後提案する。

質問 農林業と観光の連携をどのように進めるか。

答弁 国際化という流れの中で農業を経済面から考えていきたい。観光と結び付けるには教育体験学習など体験型観光に力を入れたい。

質問 市民の雇用を創出するにはハード事業を進めるべきと考えるがどうか。

答弁 雇用については危機感を覚える。公共事業の削減で建設業の停滞は続く。雇用対策として、発注件数や小規模事業の対応、測量業務の助手等を



存続に変更になりつつある内陸線